



大錦画日々新聞紙 第八号

明治八年身二月の頃ありし心算をし

北詰小丹波屋和助の娘のいとやうく今年十七の

春風ゆき早りうきうのちよきとて麻あ

事久知らぬども細き心のとらと糸

思ひ切りあん肥後をせう入水を

ませーがまが隣家やも未吉が

娘アうととるの親ごの名

やも似もつて是も本年

十八のゆき糸とハまご

うかーが同ト流の川端より

身を投捨けて二人が死骸ハ木津川の

高助島ゆきアしを捜しゆきと埋葬の

海乃りしがまねの双方の親心ア重き

命を軽々と捨てる不孝の罪トヤソん

大水堂 行舟結



小徳政二代
白雲修画

富士受板
九一